

## 事例1 妊娠中から退院後までのきめ細かな支援

### ● 妊娠中の母乳育児支援

母親に「赤ちゃんは母乳で育てたい」という意識づけを行うとともに、出産後赤ちゃんが吸いやすい乳首にするための準備が必要。

#### 妊娠中の母乳育児支援

健診時の個別指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医師・助産師による母乳育児の意思の確認、乳房・乳首のケア</li> <li>・ 妊娠 36 週から乳管開通法の実施</li> </ul>
助産師外来	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医師・助産師の連携による個別指導</li> </ul>
母親学級	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 母乳育児の利点、母乳育児を進めるポイントなどを集団指導</li> <li>・ 講義形式から参加型形式へ</li> <li>・ 6 回から 5 回クラスへ内容変更</li> </ul>
ペアクラス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 土曜日に開催</li> <li>・ 夫と家族の母乳育児の参加と役割</li> </ul>
双胎クラス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 双胎の母乳育児をするためのポイント</li> </ul>

妊娠 5 か月の健診時に産科医による乳房チェック。妊婦は母乳育児に関する希望や疑問などを「乳房カルテ」に記入。助産師が個別対応（乳房・乳首のケア指導等）。妊娠 7 か月に再度乳房チェック。

【妊婦が主体となる参加型へ】  
妊婦さん自身が発言したり、体験したりしながら、不安や疑問を解決できるように構成。  
【第 5 回を出産後に赤ちゃんと一緒に参加する産後クラスへ】産後 2、3 か月の人が中心。グループで赤ちゃんの紹介をかねてフリートークを行い、出産・育児の体験を共有。小児科医に心配ごとや気になることを尋ねたり、助産師からは産後 1 か月以降の乳房の変化、乳房トラブルなどを説明。

### ● 入院中の母乳育児支援

母親が赤ちゃんの抱き方や授乳の方法やタイミングなど、母乳育児のために必要な方法を会得するとともに、子どもを抱いて授乳することにより母子関係の絆を深める。

一人一人の母親にきめ細かな指導をしながら母子を支援し、母親が退院後自信を持って母乳育児ができることを目標にする。

#### 分娩時の母乳育児支援

- ・ 分娩第一期の乳管開通法の実施
- ・ 臍帯切断後からのカンガルーケア
- ・ 分娩後 30 分～1 時間以内の直接授乳
- ・ 母子にやさしい環境への配慮

母親の状態によって術後当日から 1 日目より、助産師の全面介助による直接授乳を実施。

#### 褥婦棟の母乳育児支援

- ・ 母子同室、母子同床
- ・ 生後 24 時間以内に 7 回以上授乳する
- ・ 頻回授乳（子どもが欲しがるときに欲しがるままに与える）
- ・ 具体的で個別的な授乳指導
- ・ 母親の疲労感や訴えを傾聴する。母子の状態を的確にアセスメントし、必要に応じて子どもの預かり（母親の休息）や糖水の補充（ソフトカップ使用）
- ・ 未熟児室入院中の母親への援助
- ・ 帝王切開術後の母親への援助
- ・ 小児科医師による生後 5 日目の面談

母子同室の基準は、子どもの修正在胎週数 36 週、体重 2,000 g 以上で、子どもの状態が安定し、褥婦棟での母子同室が可能と判断された場合に適応。直接授乳ができるまでの間、母親には 3 時間ごとの自己搾乳の必要性（決して量ではなく搾乳回数、乳房への刺激が重要であること）を説明、支援。